

【日 時】 平成25年10月5日(土) 9:15~12:30

【散策コース】 全行程 約 5km (WC)印はトイレあり

三岐鉄道 北勢線 楚原駅前(WC) (集合・受付)

→ ①楚原神社 → ②地蔵堂 → ③観音堂(WC) → ④寝覚めの橋

→ ⑤文治の墓 → ⑥覚通寺(WC) → ⑦麻績塚古墳

→ ⑧六把野井水 → ⑨萬笑院(WC) (解散)

→ 麻生田駅 (西桑名行き 12:43 阿下喜行き 13:00)

【案内人】 伊藤 忠 さん (ふるさといなべ市の語り部の会)

出口 保男 さん (")

二井 靖呼 さん (")

藤田 修士 さん (")

主催 : 三重県

後援 : いなべ市・いなべ市教育委員会・三岐鉄道株式会社

協力 : ふるさといなべ市の語り部の会

事務局

三重県桑名地域防災総合事務所

地域調整防災室 地域防災課 TEL: 0594-24-3821

< 濃州道の概要 >

濃州道は、桑名市三ツ矢橋町から、東員町鳥取、いなべ市員弁町笠田、いなべ市北勢町阿下喜、いなべ市藤原町川合などを通り、いなべ市藤原町山口で巡見道と合流して濃州（今の岐阜県）へ向かう街道である。三岐鉄道北勢線とほぼ並行するこの街道は、員弁郡下と桑名城下を結ぶ道として発展し、桑名では「員弁街道」とも呼ばれた。

北勢鉄道（現三岐鉄道北勢線）が敷設されるまでは、桑名から阿下喜まで馬車が通じていた。現在も起点の桑名には馬道という地名が残り、往時を偲ばせる。

街道の南に員弁川が流れているが、地元では額田と星川の境にある坂井橋から上流を員弁川、下流を町屋川とも呼んでいる。額田も星川も現在は桑名市だが、かつて額田は旧桑名郡、星川は旧員弁郡であり、橋の対岸の坂井という地名は、両郡の郡境だったところから付いた。星川から森忠、芳ヶ崎と続く街道沿いには切妻屋根や格子戸のある美しい家並みが残っている。そして、由緒ある寺院や神社などが点在し、歴史情緒が感じられる。

芳ヶ崎には市指定の天然記念物である巨大な「クロガネモチの木」があり、当時から街道の目印として利用されていたという。また、東員町鳥取には、鳥取塚があり、饅頭型の円丘の上に明治44年（1911）に建立された珪化木の碑が建っている。珪化木でできた碑は珍しく、上部は風化が激しいが、くっきりと「鳥取塚」の文字が刻まれている。

東員町から戸上川にかかる茶屋川橋を渡っていなべ市員弁町へ入ると次第に緑が多くなり、ゆったりとした雰囲気にも包まれる。大泉新田、笠田新田など「新田」の名が付く集落に行く街道は、未舗装の坂道なども通り、西に鈴鹿山脈、北に養老山地の美しい山並みが広がるのどかな風景を望みながら、いなべ市北勢町の中心地である阿下喜へ向かう。阿下喜は岐阜県海津方面へ続く道とも交わり、その道は養老と海津を結ぶ交易路でもあったため、商業の町として発展した。阿下喜を過ぎていなべ市藤原町に入ると、街道は国道306号ともしばらく合流するようになる。そして山口で巡見道と合流して、岐阜県大垣市上石津町へと入っていく。

① そはら 楚原神社

品陀和気命（応神天皇）など7柱を祀る神社。天文7年（1538）創祀されましたが、永禄12年（1569）に兵火で焼失しました。明治40年（1907）に金刀比羅神社・火産霊神社・山神社・稻荷神社、大正5年（1916）に御園神社を合祀しました。



② ^{じぞうどう}地蔵堂

観音堂の前に建つ、笠田新田延命地蔵堂。

昭和7年（1932）に和賛講中渡部藤之助ら11名が発起人となって建立したもので、堂は赤溜の旧観音堂を改築し、本尊の地蔵菩薩像は桑名で購入しました。



③ ^{かんのんどう}観音堂（瑞龍院 観音堂）

大池山と号する真宗大谷派の寺院。天明元年（1781）、長楽寺（藤原町篠立）7世の抜雲覚瑞が笠田新田の赤溜西方に位置する経ヶ丘に庵を結び、聖観音像を安置したのが観音堂の始まりである。

天明3年（1783）の干ばつには、農民たちの窮状を救おうと抜雲が雨乞いを行ったところ、にわか大雨となったことから雨乞い観音ともいわれた。



④ ^{ねざ}寝覚めの橋

明智川に架かる。かつては目の覚めるほどの立派な朱塗りの橋であったことから、この名が付けられたとされる。



⑤ ^{ぶんじ}文治の墓

寛政11年（1799）8月1日、笠田新田と宇野村との水争いが両村民の喧嘩となり、鍬・鎌・竹槍等を手にした激しい百姓の出人で、宇野村の文治が大溜下の宇野用水分水口で重傷を負い、戸板に乗せられて宇野村へ引き揚げる途中、明智川を渡った西側まで来て絶命するという悲惨な事件が発生した。その絶命した場所にある。



⑥ ^{かくつうじ} 覚通寺 (^{りゅうかざん} 龍華山覚通寺)

龍華山と号する真宗大谷派の寺院。文明2年(1470)に足利義政の家臣であった三浦清経が出家して源明と号し、真言宗の寺院として開山した。文明11年(1479)蓮如の伊勢巡化の際に浄土真宗に改宗し、源明は信称坊静真と改名。天正5年(1577)に兵火で焼失して以来2度の火災に遭い、現在の本堂は昭和5年(1930)に再建されたものです。



⑦ ^{ろっばのゆすい} 六把野井水

北勢町麻生田から桑名市大仲新田までの全長3里29町(約12Km)

慶長6年(1601)初代桑名藩主になった本多忠勝が、大型土木工事六把野井水の構築に着手し、35年余りの年月を要して、第5代藩主定綱の時に完成したと言われている。



⑧ ^{おみづかこふん} 麻績塚古墳

久保院八十八ヶ所道

墓の主は長白羽神の末裔、神麻績郷おみのみらじと関係者と伝えられています。1号墳は前方後方墳で全長43m、2号墳は円墳で直径16mです。古墳を囲むようにミニ霊場、八十八ヶ所道が再現されている。



⑨ ^{ばんしょういん} 萬笑院

臨済宗妙心寺派本尊阿弥陀如来、室町時代(約600年前)建立の古刹。住職は第21代元道宗薫。

初代桑名藩主である本多忠勝公は萬笑院中興の祖文華大和尚と親交が深く度々往来があり、当院には忠勝公の御位牌が安置されている。



(出典：みえ歴史街道ウォーキングマップ 美濃街道 濃州道 八風道(三重県)ほか)